

■コンセプト

- つんどく(積読)がコンセプト
- 書籍棚に並べられた本を取り出して読むのではなく、あっちこっちにページを開けて置きっぱなしにし、俯瞰する読書を想定する
- 書籍1冊は「つんどく」レイヤーに1つに割り当てる
- 「つんどく」レイヤー間は、ページを切り替えるように移動できる
- 「つんどく」レイヤーは透過率が自動調整され、前面は濃く背面は薄くなり、重ね合わせて複数の書籍が同時に見える
- 書籍内の各ページ、「つんどく」レイヤー間は簡単な操作でハイパーリンクできる
- 同じ本を別の本と組み合わせて、まとまりのある管理単位「つんどく山」として保管できる



福島清彦 著 「ヨーロッパ型資本主義」
から『
政府の本来の仕事
は、消費者が信託機関
って消費者の資産を投
者が自分たちで投資
できる
の経済社会をつくる
である
』
の補正予算案
で、政府が日本おバカ
遺産をもう一つ増やす
計画を発表しました。
それは、建設費117
億円の国立メディア芸
術総合センターです。

重ね合わせ表示のマルチ画面

福島清彦 著 「ヨーロッパ型資本主義」
から『
政府の本来の仕事
は、消費者が信託機関
って消費者の資産を投
者が自分たちで投資
できる
の経済社会をつくる
である
』
の補正予算案
で、政府が日本おバカ
遺産をもう一つ増やす
計画を発表しました。
それは、建設費117
億円の国立メディア芸
術総合センターです。

書籍間のハイパーリンク

電子書籍だから
同じ本を別の本
と組み合わせて
積読山にできる



書籍の管理